

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、多彩な人材を輩出しています。今回は、株式会社プリンスホテル代表取締役社長の小山正彦さんに、お話を伺いました。

株式会社プリンスホテル代表取締役社長

小山正彦さん

こやままさひこ

ひこ



〈プロフィール〉

1956年高砂市生まれ
県立加古川西高校卒、立命館大学卒
大学卒業後は（株）プリンスホテルへ入社。社会人野球チームに所属し、選手やマネージャー、コーチを歴任。
都市対抗野球大会での優勝をきっかけに退部し、1990年に品川プリンスホテルに配属。
その後、2001年に大津プリンスホテル総支配人。
2006年に執行役員。2016年に取締役常務執行役員。
2018年から代表取締役社長を務めている。

■野球漬けの毎日

高砂市で生まれ、小学生の頃から、公園や田んぼで野球をしていました。

播州地区は野球が盛んで、加古川西

高校でも、野球の強い中学校からメンバーやが集結、2年生では県ベスト8、

3年生では決勝まで行きました。

決勝の相手は東洋大姫路。先制点を

取り甲子園がチラついた瞬間にエラー、逆転負け。甲子園出場とはなりません

でしたが、とてもいい思い出です。

■プリンスホテル野球部で

立命館大学の監督から誘われ、同大学へ、その後、野球部が創部されたプリンスホテルへ入社。同期には、西武の石毛選手など多くのスターがいて、

とにかくレベルが高い。3年目からマ

ネージャー、後にコーチとなりました。

マネージャーは、寮生活の環境づく

りから社会人教育を含めて担います。

選手の中には、スターのような扱いを受け錯覚したり、東京の煌びやかなネ

オնを見て道を外しそうになる者もいます。ホテルの会社による野球チーム

なので特に礼儀を厳しく教えました。当時は、かなり恐れられていきましたね。

また、コーチとして、勝つための戦略や、本番に最高の力が發揮できるよう、各選手の個性に応じたコンディショニングづくりを行いました。

オフの1カ月だけがホテル勤務だったので、新入社員のようなもの。とにかく何でもやりました。特に、横浜のホテルのオープン前の6ヶ月間、応援に行く機会があり、基本的なことを学べたことは大きかったです。

■33歳新人ホテルマン

11年目に都市対抗野球で念願の日本一を果たし、やり残したことはない、

とチームを離れ、ホテルマンに転身、

最初の配属先は、品川プリンスホテル総務課でした。野球部時代は、12月のJR大津駅は、京都駅からたった2

■ポジティブにアイデア勝負

大津プリンスホテル（現びわ湖大津プリンスホテル）の支配人として配属さ

れました。

JR大津駅は、京都駅からたった2

駅ですが、東京ではほとんど知られていません。社員の中には、京都に勝てないという意識が蔓延していました。

初めから負けると思つていては勝てない。野球と同じです。そこで、まずは京都駅からの近さをアピールし、駅からはシャトルバスを出しました。また、琵琶湖や比叡山をはじめ、石山寺など

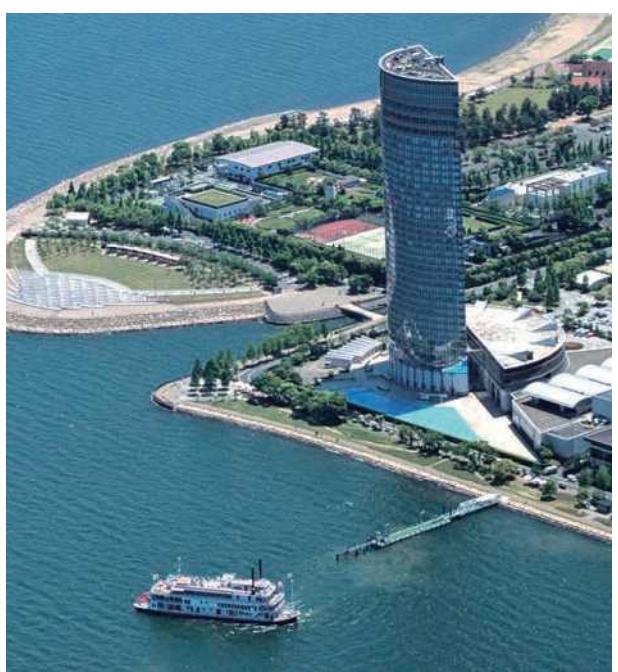
知る人ぞ知るお寺を社員と一緒に回つて勉強し、皆でPRを始めました。

さらに、ホテルから見える琵琶湖の景色は最高です。琵琶湖を船で楽しんでほしいと思いました。しかし、漁業組合や国等の許可なしに作ることはできません。当時、阪神・淡路大震災の後、自治体が災害対応を行つていた頃で、国道が遮断された時に備えて、琵琶湖に災害避難用桟橋が必要だという話が出ました。ホテルの横に避難場所となる県立体育館があり、その目の前に桟橋を作ることに。普段は観光目的で使用できるということで、当社が作ることになりました。今も遊覧船を楽しんでいただいている。

私は大学が京都なので、滋賀は地元のようなもので。大学の同級生や先輩・後輩も多く、また、社会人野球つながりで関西企業にも知り合いが多くいたので、人脉にもとても助けられました。

その後、軽井沢プリンスホテルの総支配人として配属。軽井沢プリンスホテルでは、当時、冬季営業を休止していましたが、軽井沢に別荘を持つ人たちのニーズを聞き、新たに高級ヴィラの建設を行うほか、スキー場や買い物への無料送迎などのサービスも充実させ、通年営業を軌道に乗せることができました。

ホテルの仕事では、野球部時代の経験がとても生きていると思います。



びわ湖大津プリンスホテルと琵琶湖にかかる桟橋

■ふるさとへの思い

18歳までしかいなかつたですが、特に中学、高校の6年間は一番濃密で、地元は特別のものだと思います。

定期的に実家へは帰省していますが、仕事柄、正月や盆に開催される同窓会には残念ながら、参加できていません。

東京在住の同級生とは、よく集まっていますが、昨年は忘年会代わりに外でゴルフとなりました。

■県人会の皆さんへ

総会・講演会では、品川は集まりやすくよかつたなどのお声をいただき、ありがとうございました。県人会を通じて皆さんの仲間入りをさせてもらえたことを大変うれしく思っています。

特に私は、転勤が多かつたので、長らく会にも参加できていませんでした。

今後はぜひ、品川でも高輪でも、プリンスホテルが皆さんのお役に立てるようになればいいなと思っています。気軽に声を掛けていただければと思います。

もうひとつは、急速に進んでいるデジタル化です。ホテルの魅力は対面での接客ですが、非対面の方が安心とうニーズに変わりつつあります。当社

も10月に「プリンススマートイン恵比寿」を非接触型のホテル1号店としてオープンし、今後増やしていくたい

■新時代のホテルづくりへの挑戦

新型コロナウイルス感染症の影響で、

小山さんからいただいた品川プリンスホテルの宿泊券・食事券をプレゼントします。

詳しくは47ページへ！